

【NEWS RELEASE】

2020年1月31日

各位

株式会社三井住友銀行

大建工業株式会社に対して建材業界では国内初となる
「ESG/SDGs評価」に基づくコミットメントライン・シンジケーションを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、大建工業株式会社（代表取締役社長執行役員：億田 正則）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくコミットメントライン・シンジケーションを組成いたしました。なお、建材業界においては大建工業株式会社が国内初の取組となります。

本件は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、大建工業株式会社のESG（1）側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）（2）達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同いただいた金融機関によって組成されるコミットメントライン・シンジケーションとなります。

今回の大建工業株式会社に対する評価結果は、「サステナビリティへのコミットメント」、「事業活動における環境負荷削減の取組」、「従業員への配慮」において高い水準であると判断されました。企業経営において優れたESG側面の取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じたSDGs達成への貢献意欲が高いという評価となりました。

ESG側面の取組、情報開示では、以下の点等が評価されました。

長期ビジョン「GP25」と中期経営計画並びに中期ESG計画を組み合わせ、経営上の重要課題としてサステナビリティの取組を推進し、事業を通じた社会課題解決の追求により成長することを明確に示しておられる点

事業活動に伴う温室効果ガス排出量について総量削減目標を経営目標とし、木質バイオマスを中心とした再生可能エネルギーの利用拡大等を推進するほか、水資源や廃棄物等の環境負荷低減に総合的に取り組んでおられる点

ダイバーシティ推進、働き方改革推進、人材育成、安全基本方針を整備して従業員の働きやすさや育成に取組、労働安全衛生や多様な働き方の実現に関連する指標を含むESGデータを開示しておられる点

加えて、事業を通じて、SDGsが示す「目標12：つくる責任つかう責任」「目標15：陸の豊かさを守ろう」等の達成に向けて明確な意欲を持ち、SDGsの示す社会課題への貢献を意識した開示を実践されています。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs 評価シンジケーション」のESG評価を踏まえた情報提供を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

<ご参考>

1 ESGとは

環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことで

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。